

【2025年度 人文科学研究科博士前期課程 カリキュラムマップ】

授業科目	<p>人文科学研究科日本伝統文化専攻では、本学の教育理念および本専攻の人材養成目的に基づき、本専攻の課程を修め、所定の期間在学し、博士前期課程で30単位の修得と必修などの条件を充たすとともに、演習担当教員の指導のもと、日本伝統文化に関する諸学〔民俗学、考古学(歴史考古学及び寺院史)、美術史学、文献史学(古代史、中世史及び日本文化史)、古典文学〕を総合的・体系的に究明し、博士前期課程では修士論文の審査及び最終試験に合格し、以下の、独創的かつ先進的な成果をあげ、知識・能力・資質等を身につけた者に修了を認定し、学位を授与する。そのために、本研究科のアセスメント・ポリシーを策定する。</p> <p>1. 専門知識と研究成果 演習担当教員の指導のもと、条件を充たす学術論文等の形式で、日本伝統文化の諸学に関する、独創的かつ先進的な成果を発表している。</p> <p>2. 専門知識や技能の活用 変化する社会状況に応じて、日本伝統文化に関する高い見識や修得した高度な研究能力、表現・発信力を生かし、学際的視野に立って、社会や地域に関する諸問題について専門的な見解を持ち、他者に説得的に伝えることができる。</p> <p>3. 主体的な意識と態度 日本伝統文化を深く理解し、高度な専門職業人学際的視野に立つ研究者として、自らの高い、長期的な目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. 多様なコミュニケーション 日本伝統文化に関する深い見識や学際的な知見に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々を相手の立場に立って深く理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて高度な、専門的協働をすることができる。</p> <p>5. 社会人としての自立 専門的職業人や学際的視野に立つ研究者を目指すのにふさわしい素養や倫理観、責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>				
	1	2	3	4	5
日本伝統文化特論		○	○	○	
奈良学特論		○	○	○	
民俗学演習	○		○		○
考古学演習	○		○		○
美術史演習	○		○		○
日本史演習	○		○		○
古典文学演習	○		○		○
民俗学特論A		○	○	○	
民俗学特論B		○	○	○	
民俗学特論C		○	○	○	
民俗学特論D		○	○	○	
民俗学特論E		○	○	○	
民俗学特論F		○	○	○	
考古学特論A		○	○	○	
考古学特論B		○	○	○	
考古学特論C		○	○	○	
考古学特論D		○	○	○	
考古学特論E		○	○	○	
考古学特論F		○	○	○	
美術史特論A		○	○	○	
美術史特論B		○	○	○	
美術史特論C		○	○	○	
美術史特論D		○	○	○	
美術史特論E		○	○	○	
美術史特論F		○	○	○	
日本史特論A(古代)		○	○	○	
日本史特論B(古代)		○	○	○	
日本史特論C(中世)		○	○	○	
日本史特論D(中世)		○	○	○	
日本史特論E		○	○	○	
日本史特論F		○	○	○	
古典文学特論A		○	○	○	
古典文学特論B		○	○	○	
古典文学特論C		○	○	○	
古典文学特論D		○	○	○	
古典演劇特論A		○	○	○	
古典演劇特論B		○	○	○	
古典演劇特論C		○	○	○	
古典演劇特論D		○	○	○	
特殊講義		○	○	○	

【2025年度 人文科学研究科博士後期課程 カリキュラムマップ】

授業科目	<p>人文科学研究科日本伝統文化専攻では、本学の教育理念および本専攻の人材養成目的に基づき、本専攻の課程を修め、所定の期間在学し、博士後期課程で4単位の修得と必修などの条件を充たすとともに、演習担当教員の指導のもと、日本伝統文化に関する諸学〔民俗学、考古学(歴史考古学及び寺院史)、美術史学、文献史学(古代史、中世史及び日本文化史)、古典文学〕を総合的・体系的に究明し、博士後期課程では博士論文の審査及び最終試験に合格し、以下の、独創的かつ先進的な成果をあげ、知識・能力・資質等を身につけた者に修了を認定し、学位を授与する。そのために、本研究科のアセスメント・ポリシーを策定する。</p> <p>1. 専門知識と研究成果 演習担当教員の指導のもと、条件を充たす学術論文等の形式で、日本伝統文化の諸学に関する、独創的かつ先進的な成果を発表している。</p> <p>2. 専門知識や技能の活用 変化する社会状況に応じて、日本伝統文化に関するきわめて高い見識や修得した特に高度な研究能力、表現・発信力を生かし、学際的視野に立って、社会や地域に関する諸問題について専門的で、かつ、独創的な見解を持ち、他者に説得的に伝えることができる。</p> <p>3. 主体的な意識と態度 日本伝統文化を特に深く理解し、高度な専門職業人学際的視野に立つ研究者として、自らの高く、緻密で、長期的な目標をもち、その実現のために主体的に、かつ自立して学ぶことができる。</p> <p>4. 多様なコミュニケーション 日本伝統文化に関する特に深い見識や学際的な知見に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々を相手の立場に立って深く誠実に理解し、配慮しながら、精確で豊かな表現力を用いて高度な、専門的協働をすることができる。</p> <p>5. 社会人としての自立 専門的職業人や学際的視野に立つ研究者を目指すのにふさわしい素養や特に高潔な倫理観、責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる優れた実践力を身につけ、社会の中枢を担う存在として適切な行動ができる。</p>				
	1	2	3	4	5
民俗学特殊研究	◎		○		○
寺院史特殊研究	◎		○		○
美術史特殊研究	◎		○		○
日本文化史特殊研究	◎		○		○
古典文学特殊研究	◎		○		○
民俗学特殊講義		◎	○	○	
寺院史特殊講義		◎	○	○	
美術史特殊講義		◎	○	○	
日本文化史特殊講義		◎	○	○	
古典文学特殊講義		◎	○	○	